

事業活動実績報告書

施設名	東光幼稚園
教育理念	○命の尊さを知り、自分や他人の実を大切にできる心、思いやる心を育てる ○健康な身体と豊かな心 ～調和のとれた人間形成～ ○いろいろな遊び・体験・創作活動を通して想像力に富んだ子どもを育てる
1 事業名	～観て、作って、演じてみよう～ 「共感の感性を育む紙芝居の世界」
2 実施期間	令和 7年 4月 8日 ～ 令和 8年 3月 16日

3 取組概要	（取組日） 令和7年 4月 8日 ～ 令和7年12月16日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【研修】・年長児の紙芝居活動（製作・実演）にあたり、引き続き本園絵画造形指導講師であり、紙芝居作家また演者である宮崎二美枝氏に指導やサポートを受けながら進めていく事とした。 ・年長児の紙芝居製作の題材選びにあたり、昨年に引き続き興味や関心を持続しながら、観て感じて共有しあえるという視点で検討し、新緑開花、結実、収穫と、常に傍らで四季を感じられる、園庭の「みかんの木」の観察と描画による表現、さらに気づきや発見の記録を綴るという形式で紙芝居を作成することに決定した。	
	（取組日） 令和7年 4月 8日 ～ 令和7年12月16日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・コミュニケーションエンターテインメントとしての紙芝居の持つ魅力や、幼児の育ちにもたらす意義や、読み手としてのスキル（声や表情、場面の切り替え方）について、宮崎氏の指導による研修会を、座学と子どもたちの鑑賞会も兼ねて実演会の両面で実施した。 ・実演会（鑑賞会）では、客席（幼児）からの目線、読み手の演技やすさ等を考慮した紙芝居舞台の設置や、舞台効果のライティング、開幕の臨場感を出す緞帳様の表紙の扱い方を学んだ。	
	（取組日） 令和7年 4月14日 ～ 令和7年11月20日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【観察と記録】 ・観察への意欲や楽しさ向上の効果を期待して、紙で「虫めがね」を作ったところ、虫めがねを当てた部分が「なんか顔に見える」と気付いた子をきっかけに、園内のいたるところで「顔」を見つける顔探し遊びが始まった。目玉用のシールを用意したところ、年長だけにとどまらず、全学年を巻き込んで一大ブームに発展した。	
	（取組日） 令和7年 4月14日 ～ 令和7年11月20日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・何の顔に見えるかを思い通りに表現できるよう、様々な素材を用意すると、さらに盛り上がりを見せた。他の子がすでに見つけた場所や、同じものであっても、見える顔はそれぞれ違うという事で全てを受け入れ、みんなの前で認めることで、それまで自己表現が弱かった子が嬉々として「見て見て」と呼びに来る姿も見られるようになった。さらにこれらをきっかけに自発的に話したり、遊びの中に入ろうとするようになった。	

3 取組概要	(取組日) 令和7年 5月14日 ～ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・民舞・和太鼓ワークショップを開催し、プロの演技鑑賞の後、民舞「荒馬踊り」の体験に参加した。今年度は、自分の気持ちや思いを存分に発露する喜びを味わう体験として、民舞の配分を増やすことにした。昨年、年中組時代にも体験しており、「やったことある」「覚えてる」という安心感や、年下の友だちをリードしようという意欲も見られ、歓声を上げたり、友だちとふざけ合いながらも全員が嬉々として体を動かしていた。 
	(取組日) 令和7年 4月14日 ～ 令和7年11月20日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・開花、葉の裏についた卵や様々な虫、花が落ちた跡に小さな実がついたり、初夏の木が目まぐるしい変化への発見や気づきを帰りの会で発表しあい、「みかんの木」と称した記録ボードを設置し、日々の気づきや発見を葉っぱ型のカードに記載して貼っていった。 ・子どもには見えない部分に加えて、子ども自身で発見したのも撮影し、記録ボードに掲示した。徐々に「木」が賑やかになってくると、自発的に虫の絵を描き加える子も出てきた。 
	(取組日) 令和7年 11月20日 ～ 令和年11月20日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・今年も実がなり始めた頃は、比較的数量が多かったが、強風や大雨で大半が落ちてしまい、さらに酷暑の影響もあってか、葉が変形や変色したりして、異変が感じられたが、引き続き観察を実施していた。ほとんど落ちてしまった葉ばかりの木ではあったが、わずかに残った数個のみかんに「大きなあれ」と声をかける様子も見られた。 
	(取組日) 令和7年 11月20日 ～ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・昨年同様、表皮の変色が見られたり、収穫も数えるほどだったが、みかんの実自体は問題がなかったので、数個のみかんと全園児で分け合って食べることにした。 ・収穫したばかりのヘタの切り口や、表皮の匂いを嗅いだり、実食用に切った断面をじっくり見たりと、「幼稚園のみかん」として特別感を味わう姿が見られた。 
	(取組日) 令和7年 11月20日 ～ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 
	(取組日) 令和7年 4月11日 ～ 令和8年 2月24日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【描画活動】 ・紙芝居のベースとなる描画は、絵画造形あそびの活動として専任講師宮崎氏の指導の下で開始した。 ・ストーリー先行の形式ではなく、その時その時観て感じたことを描き貯めていく記録作品として作成した。 ・「今日はこんな虫がいたよ」「雨がふってるね」といった情景を拾い上げながら、全員で同じ場面を描くことで友だちの作品に刺激やヒントを得る姿が見られた。 

3 取組概要	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・紙芝居作品としてだけでなく、年長児の絵画あそびの取り組みとして、新緑から開花、結実、収穫、実食までの折々の様子を、その都度様々な手法や形状で表現していった。 ○自分で描いて切った葉っぱのスタンプ。 ○接着シートを使って花びらの切り貼りをし、絵をのせていく。 ○筆圧で色の濃淡に変化を出す。 ○画用紙を縦につなげて、「木」の高さや大きさをダイナミックに表現する。 
	(取組日) 令和7年12月15日 ~ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・縦長の「木」は作品展に展示した。また、紙芝居の一場面としても登場させている。 
	(取組日) 令和7年12月15日 ~ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・「読み手」として演じる際の、思い切って声を出す、場面を想像して自由に表現する等の起爆剤として、またストーリー作りのヒントとして「うさぎの森企画」の大森靖枝氏と三根正信氏によるうたあそびの会「なんだろう なんだろう」を開催した。 ・歌とリズムに乗ったいくつかの簡単な問いかけ遊びやうたあそびが満載で、また子どもからのどんな言葉も表現も全て受け止めそれを使って展開していく事で、開放感が高まり普段自己表現が弱い子ども嬉々として参加する姿が見られた。 
	(取組日) 令和8年 1月13日 ~ 令和8年 2月24日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【紙芝居ストーリー作り】 ・春から描き貯めてきた、みかんの木の記録作品を一場面づつ見て振り返りながら、思い出したことや、想像したことを発表しあい、場面と場面をお話として繋いでいった。 ・必ず一人一場面あたるよう絵を選抜し、子どもたちから聞き取った言葉を宮崎氏の監修によりまとめ、「東光のみかんの木」として制作した。 写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
	(取組日) 令和8年 3月16日 ~ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【紙芝居発表会】 ・紙芝居製作活動の締めくくりとして、読み手として演じる「紙芝居発表会」を年中組、年少組、満3歳児の前で実施した。 ・紙芝居の製本が間に合わなかったため、原画を使用して演じた。 
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・表紙含む全19場面 (紙芝居製作のエピソード写真の付録付き) ・オリジナル装丁紙芝居専用ケース ・計10部を作成した。 ※園児には、セリフを録音しスライドショー形式での紙芝居動画のDVDを作成し、記念に贈呈する。(令和8年6月の卒園アルバム受け渡し時) 

効果検証報告書(継続事業用)

施設名		東光幼稚園				
教育理念		○命の尊さを知り、自分や他人の身を大切にする心、思いやる心を育てる ○健康な身体と豊かな心 ～調和のとれた人間形成～ ○いろいろな遊び・体験・創作活動を通して想像力に富んだ子どもを育てる				
事業の区分(5領域)		幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの(複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください)				
		健康	人間関係 ○	環境 ○	言葉 ◎	表現 ◎
1 事業名		～観て、作って、演じてみよう～ 「共感の感性を育む紙芝居の世界」				
2 事業概要		●自分の思いや知識を伝えるために、紙芝居の手法で表現し伝える活動をする。 ●多様な表現の仕方を経験する(小さなお話作り、歌あそび、クレヨン遊び、絵の具遊びなど)				
3 対象学級(クラス名) 対象人数		年長組(クラス名: らいおん組)			14 名	
計画時	4 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 ●民舞・和太鼓ワークショップ(外部講師招請) ●歌あそびワークショップ(外部講師招請) ●絵の具遊び指導(園内非常勤講師) ●紙芝居作り指導(園内非常勤講師) ●紙芝居演じ方指導(園内非常勤講師)				
	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 ・例年開催している民舞・和太鼓ワークショップにおいて、今年度は、自分の気持ちや思いを存分に発露する喜びを味わう体験として、民舞(荒馬踊り等)の配分を増やすことにした。昨年、年中組時代にも体験しており、「やったことある」「覚えてる」という安心感や、年下の友だちをリードしようという意欲も見られ、歓声を上げたり、友だちとふさげ合いながらも全員が嬉々として体を動かす姿が見られた。 ・歌あそびワークショップにおいて、大森氏、三根氏の、子ども達からの言葉や動きの全てを拾い上げながら進むパフォーマンスに、子ども同士触発されながら解放感を存分に味わえた。 ・紙芝居作家である本園絵画造形指導講師、宮崎二美枝氏の全面的な協力体制の下で、「園庭のみかんの木」を題材に年長クラスで取り組みを開始した。子どもたちの観察エピソードに合わせて宮崎氏の指導により、様々な手法や形状で春から秋の木の生長を描き貯めることで、その時その時の思いや気付きを無理なく紙芝居のベースになる絵に描写することができた。また、宮崎氏により職員への座学研修や実演会を通して基本的な操作方法も研修できた。宮崎氏の紙芝居実演は学期ごとに全体会、クラスの活動時間内に適宜実施した。				
計画時	5 事業のねらい	●表現活動を通して、自分の思いを存分に発露する楽しさを味わう。 ●様々な表現の仕方を経験し、新しい発見や気付きによる興味や関心の幅を広げていく。 ●専門家の実演や指導を体験し、紙芝居の楽しさを味わう。 ●お話作りや紙芝居作り、紙芝居の実演体験を通して、誰かと関係をつくる、好きなことで影響しあうといった共感体験を味わいながら、豊かな人間関係を築く力を育む。				
	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 帰りの会で発表してもらった子どもたちの発見や気付きを葉っぱ型の観察カードに記入し、裸の木の観察ボードに貼っていった。どんな些細な事でも、友だちと内容が同じでも、構わずに葉っぱカードにして貼っていき、徐々に葉が増えていく様子を喜び、臆せずに発言するようになっていった。また、友だちの発表を聞いて共感したり、そんな見方もあるのかと新たに気付く様子も見られていた。専門家の実演鑑賞は十分に実施できたが、観察が長期になるため園児への実演体験の時間が取れなかったので、題材の再検討も計画している。				
計画時	6 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ●「多様な表現の仕方を経験する」 ・小さなお話作り ・歌あそび ・クレヨン遊び ・絵の具遊び。 ●専門家による実演の鑑賞と指導。 ●4場面程度の基本的な紙芝居作りを体験する。 ●クラスで共同して紙芝居づくりを体験する。 ●発表の場を設けて実演を体験する(年中、年少の友だち、保護者)。				
		上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点 ・通年、全学年において紙芝居作家の宮崎二美枝氏による絵画造形指導を実施している。 様々な技法や素材を取り入れながら、絵画造形で表現活動を楽しむ傍ら、宮崎氏によるプロの実演会を学期ごとに開催してきた。見て聞いて感じたことを絵を通して表現するだけでなく、その思いを言葉にして絵を物語として繋いだ。紙芝居として完成させた後、上演会として実演体験を実施した。				
		(継続事業のみ記入)前年度の取組から発展させた点 ・年間を通しての活動の中で「じっくりと見る」「発見や気付きに喜びを感じる」「自分の思いや考えをのびのびと発露し、表現する」「友だちと共感しあう喜びを味わう」という点での成果が見られた。今年度は、自分の気持ちや思いを存分に発露する喜びを味わう体験として、和太鼓ワークショップの中で、民舞(荒馬踊り等)の配分を増やすことにした。また、生活空間や園庭の自然等の身近な環境を、楽しみながら「じっくり見る」「じっくり見る」という意識作りとして「顔探し…ドアノブや壁の穴など、目鼻口に見えるものを探す」等の活動を取り入れていく。				

計 画 時	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 ・観察への意欲や楽しさ向上の効果을期待して、紙で「虫めがね」を作ったところ、虫めがねを当てた部分が「なんか顔に見える」と気付いた子をきっかけに、園内のいたるところで「顔」を見つける顔探し遊びが始まった。目玉用のシールを用意したところ、年長だけにとどまらず、全学年を巻き込んで一大ブームに発展した。何の顔に見えるかを思い通りに表現できるよう、様々な素材を用意すると、さらに盛り上がりを見せた。他の子がすでに見つけた場所や、同じものであっても、見える顔はそれぞれ違うという事で全てを受入れ、みんなの前で認めることで、それまで自己表現が弱かった子が嬉々として「見て見て」と呼びに来る姿も見られるようになった。さらにこれらをきっかけに自発的に話したり、遊びの中に入ろうとするようになった。 ・描き貯めた観察エピソードの絵を全員で春から順に振り返りながら、思い出したこと、想像したことを拾い上げ、次の場面に繋いでいくことで、自然な形で協同活動になったと思われる。卒園目前で年中以下の前で実演発表会を実施した。実演の練習に時間が取れず、担任とセリフを分担し職員が場面転換という形にはなったが、小さい友だちが真剣に見てくれたことを喜び「もっとやりたかった」という声が上がリ、達成感を味わえたと思われる。
	7 環境構成例	●専門家(外部講師・園内非常勤講師)による実演や指導を通しての関わり。 ●クラスの友だちとの共同作業や、下の学年への実演発表を通しての子ども同士の関わり。 ●クレヨン、絵の具、筆、紙といった基本的な画材と共に、多様な素材を使ったり、技法を使って表現あそびを楽しむ。 ●机上、床上等、作業環境の違いによる楽しさを味わう。 ●紙芝居舞台上に実際に触れて、構造を知り、抜き差しの方法を学ぶ。 ●園庭の木(桜、みかん、金木犀)の四季の移り変わりや、メダカの観察やエサやり等、身近な園内の自然の中で、クラスで共感できるものを見つけられるようにする。
	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 ・みかんの木の観察をきっかけに「顔さがし」遊びに発展し、何気ない日常の風景や自然に対して意識して観ようとする姿勢や、わずかな変化や発見を伝えようとする意欲が観られるようになった。 ・プロによる歌遊びの会では簡単で応えやすい問いかけ遊びやギター伴奏によるリズムや音色、また解放感を味わいながら声を出したり動き回りながら楽しむことができた。 ・宮崎氏の絵画造形あそびでは、みかんの観察画の中にスタンプや貼り絵等を取り入れたり、同じ絵の具を筆圧に変化をつけて色付けしたり、大きな木を表現する際に画用紙を縦につなげて、床上で腕を大きく動かしながら描いたりした。
計 画 時	8 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ●色々な素材や画材等に触れる中で、自分なりの表現を見つけて楽しむようになる。 ●演者によって変わる語りの表現を見聞きしながら、心地よい「ことば」「間」「声色」に気付く。 ●ことばや文字に興味を持つ。 ●話す力をつけることでコミュニケーション能力が養われる。 ●伝えるための手法が色々あることに気付く。 ●人前で発表することを喜んだり、他者の表現の違いや個性を認め合う。 ●人に共感してもらえることで自己肯定感が育つ。 ●友だちと共同で作業や発表をする中で、つまづきや喜び、達成感等の共感体験を通して、思いやりの心が育つ。
	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 ・年間を通して専門家の実演を鑑賞でき、読み手が声色等に変化をつけていることに気付き、最後の紙芝居発表会ではセリフに表情をつけようと自分なりに工夫する姿も見られた。 ・観察のエピソードの結果を葉っぱのカードで可視化していくことで、人前で発表することへの自信や、友だちに共感してもらえることで自己肯定感につながり、喜んで挙手しては発見や気付きを発表しようとする子が増えていった。 ・紙芝居の実演に対する体験や指導に時間が取れず、担任や職員のサポートが多くなってしまった。
9 効果検証総括		事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 紙芝居作家でもある本園の絵画造形指導講師宮崎二美枝氏の全面協力の下、じっくり見る、気付きや発見を言葉にする、感じたままを絵にする。何気ない日常に、意識して目を向けていくことで広がる学びの機会を広げようというコンセプトで、今年度も「園庭のみかんの木」を題材に年長児による紙芝居活動(共同制作と実演)を実施した。新緑、開花、結実、収穫、実食までの経過を観察していきながら、その時その時の発見や気付きをタイムリーに絵に描写して、最後まで描き貯めから、ストーリーをのせていく形で進めることとなった。みかんの木の観察から派生して、「顔さがし」遊びで園全体が盛り上がり、進級時の戸惑いや不安を払拭する良い機会にもなった。帰りの会で、その日の発見や気付きを発表しあう場を設け、どんなことでも、友だちと同じ内容でも構わず全て拾い上げて、葉っぱ型のカードに描き入れて、裸の木のボードに貼っていった。自分の名前と言葉が描かれているカードが増えていく様子にさらに触発されて、観察も発表も意欲的になっていった。春から実食までの全てのシーンを描き終えて、順に並んだ絵を見ながら周りの友だちとああだったこうだったと振り返ることで、共感しあう喜びを味わう姿が見られた。今年度も子どもたちによる実演も計画に入れていたが、やはり観察が長期にわたり、描き貯めるまでに時間を要するため、なかなか実演に対する体験や指導への時間配分ができず、担任や職員のサポートを入れた実演会となってしまう。また、幼児が紙芝居を演じるにあたって、まず文字を読むことが一つの課題でもあったが宮崎氏により事前にある程度覚えてセリフとして表現することも効果的であるとの助言を受け、担任と一緒にセリフを言う形で自分の描いた場面を一人ずつ披露した。次年度からは、紙芝居を「演じる」方にもじっくり取り組めるよう題材そのものから検討していきたい。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。